

労働力確保対策の地域的な取組事例

【種子島アグリタス（種子島）】

（令和7年2月）

組織の概要

【設立】 令和6年2月

【目的】 労働力確保対策の実践等

【構成】 会員（種子島の農家）18人
（構成農家の主な経営品目等）
さとうきび， さつまいも
ばれいしょ， スナッフえんどう
茶， 果樹， 肉用牛 等



設立総会（令和6年2月）

設立の経緯

- 種子島地域では、農業従事者の高齢化等による労働力不足が大きな問題
- 令和5年度に、「ハレノヒ(株)」が実施していたプロジェクト「農村発見リサーチ」（国庫事業活用）について、種子島の有志農家15人が賛同し、種子島での受入を決定
 - ※「農村発見リサーチ」は、農村が抱える課題について、スキルややる気のある外部人材を募集し、農業者と一体となって解決を目指す取組
 - ※受入に際しては、熊毛支庁農政普及課で支援
- 15人の農家は、外部人材を対象とした農業研修（4泊5日×3回）の受入や、地域の良さの発見、課題解決に向けた取組を題材としたワークショップ等に参加
- この取組を通して、人材確保には「これまで以上に農業や地域の魅力発信、関係人口づくりが必要である」ことを再認識し、実践するための組織を設立

特徴的な取組等

- 外国人材派遣受入
 - ・「YUIME(株)」と連携し、令和5年12月から同6年6月にかけて、会員（さとうきび・茶農家）が外国人材を受入
 - ・外国人材の農業面・生活面での評価が高かったことを受け、地域への波及を図るための説明会を開催。今後、地域ぐるみでの受入体制を検討予定。
- 空き家改修
 - ・島外からの人材受入にあたり、住宅確保が大きな問題であったことから、専門家を招き、ワークショップ形式での空き家改修に取り組む。
 - ・改修した空き家は、冬期は派遣外国人材の宿舎として、夏期は農家民宿として活用予定
- 産地間連携
 - ・「ハレノヒ(株)」と連携し、農繁期の異なる北海道の大規模法人との産地間連携による労働力補完に取り組む。
 - ・9～10月に6人が種子島から北海道へ行き、かぼちゃの収穫作業等に従事
 - ・12～2月に7人が北海道から種子島に来て、さとうきび等の作業に従事
- （一社）のっちーよ種子島と連携し、「農業体験会」や学生ボランティアの受入など、それぞれの経営にあった人材確保対策の取組